

2023年度

# I Tエンジニア科 講義計画集

— 第2学年 —

氏名

---

.....  
船橋情報ビジネス専門学校

〒273-0005 船橋市本町7-12-16

電話:047-425-1051  
.....

2023年度 (令和5年度) 年間計画表 ITエンジニア科2年生

前期												後期											
4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1 土	休館日	1 月	月4回	1 木	木8回	1 土	休館日	1 火		1 金		1 日		1 水	水7回	1 金	金11回	1 月	元日	1 木	木16回	1 金	学内合同企業説明会
2 日		2 火	木曜振替4回	2 金	金7回	2 日	ジョブパス	2 水	オープンキャンパス③	2 土	学校見学会	2 月	月3回	2 木	木8回 ひろえび船橋	2 土		2 火		2 金	金16回	2 土	学校見学会
3 月	始業式	3 水	憲法記念日 学校見学会(保護者)	3 土	学校見学会	3 月	月13回	3 木		3 日		3 火	火4回	3 金	文化の日	3 日	ジョブパス	3 水		3 土	学校見学会	3 日	
4 火		4 木	みどりの日	4 日		4 火	火12回	4 金		4 月		4 水	水4回	4 土		4 月	月11回	4 木		4 日		4 月	
5 水		5 金	こどもの日	5 月	月9回	5 水	水12回	5 土		5 火		5 木	木4回	5 日		5 火	火12回	5 金		5 月	月16回	5 火	
6 木		6 土	休館日	6 火	火8回	6 木	木12回	6 日		6 水	FJ B 合同 合宿	6 金	金4回	6 月	月7回	6 水	水12回	6 土		6 火	火16回	6 水	
7 金		7 日		7 水	水8回	7 金	金12回	7 月		7 土		7 土		7 火	火8回	7 木	木12回	7 日		7 水	追試	7 木	
8 土	休館日	8 月	月5回	8 木	木9回	8 土	オープンキャンパス②	8 火	学校見学会	8 金		8 日	国家試験	8 水	水8回	8 金	金12回	8 月	成人の日	8 木		8 金	
9 日		9 火	火4回	9 金	金8回	9 日		9 水		9 土	学校見学会(保護者)	9 月	スポーツの日	9 木	木9回	9 土	学校見学会	9 火	新年の会	9 金		9 土	
10 月	前期スタート 月1回	10 水	水4回	10 土	休館日	10 月	月14回	10 木		10 日		10 火	火5回	10 金	金8回	10 日		10 水	水13回	10 土	学校見学会(保護者)	10 日	
11 火	火1回	11 木	木5回	11 日		11 火	火13回	11 金	山の日	11 月	後期スタート 月1回	11 水	水5回	11 土	学校見学会	11 月	月12回	11 木	木13回	11 日	建国記念日	11 月	
12 水	水1回	12 金	金4回	12 月	月10回	12 水	水13回	12 土		12 火	火1回	12 木	木5回	12 日		12 火	25卒就職G SPI模試	12 金	金13回	12 月	振替休日	12 火	
13 木	木1回	13 土	休館日	13 火	火9回	13 木	木13回	13 日	受	13 水	水1回	13 金	金5回	13 月	月8回	13 水	25卒就職G メイク&写真撮影	13 土	学校見学会	13 火	卒研プレ発表会	13 水	
14 金	金1回	14 日		14 水	水9回	14 金	金13回	14 月	付 業 務 停 止	14 木	木1回	14 土		14 火	火9回	14 木	就職個人面談 (UGINF科)	14 日		14 水	卒業研究発表会	14 木	
15 土	学校見学会	15 月	月6回	15 水	県民の日 オープンキャンパス①	15 土	学校見学会(保護者)	15 火		15 金	金1回	15 日		15 水	水9回	15 金	就職個人面談 (UGINF科)	15 月	月13回	15 木	25卒就職G 一般常識模試	15 金	終業式
16 日	国家試験	16 火	火5回	16 金	金9回	16 日		16 水		16 土	オープンキャンパス④	16 月	月4回	16 木	木10回	16 土	オープンキャンパス⑤	16 火	火13回	16 金	集団面接練習	16 土	オープンキャンパス⑥
17 月	月2回	17 水	水5回	17 土	学校見学会(保護者)	17 月	海の日	17 木		17 日		17 火	火6回	17 金	金9回	17 日		17 水	水14回	17 土		17 日	
18 火	火2回	18 木	木6回	18 日		18 火	火14回	18 金		18 月	敬老の日	18 水	水6回	18 土		18 月	就職個人面談 (UGINF科)	18 木	木14回	18 日		18 月	
19 水	水2回	19 金	金5回	19 月	月11回	19 水	水14回	19 土		19 火	火2回	19 木	木6回	19 日		19 火	就職個人面談 (UGINF科)	19 金	金14回	19 月		19 火	
20 木	木2回	20 土	学校見学会	20 火	火10回	20 木	木14回	20 日		20 水	水2回	20 金	金6回	20 月	月9回	20 水		20 土	漢字検定	20 火	成績発表	20 水	春分の日
21 金	金2回	21 日		21 水	水10回	21 金	金14回	21 月		21 木	木2回	21 土	若幸祭前日準備	21 火	火10回	21 木		21 日		21 水		21 木	
22 土	休館日	22 月	月7回	22 木	木10回	22 土	体験入学①	22 火	成績発表 学校見学会	22 金	金2回	22 日	若幸祭当日	22 水	水10回	22 金		22 月	月14回	22 木		22 金	
23 日		23 火	火6回	23 金	金10回	23 日		23 水		23 土	秋分の日 学校見学会	23 月	若幸祭振替休日	23 火	火10回	23 土		23 火	火14回	23 金	天皇誕生日	23 土	
24 月	月3回	24 水	水6回	24 土	学校見学会 漢字検定	24 月	月15回	24 木		24 日		24 火	若幸祭振替休日	24 金	金10回	24 日		24 水	水15回	24 土		24 日	
25 火	火3回	25 木	木7回	25 日		25 火	火15回	25 金	体験入学②	25 月	月2回	25 水	月曜振替5回	25 土	学校見学会	25 月		25 木	木15回	25 日		25 月	
26 水	水3回	26 金	金6回	26 月	月12回	26 水	水15回	26 土	学校見学会(保護者)	26 火	火3回	26 木	木7回	26 日		26 火		26 金	金15回	26 月		26 火	
27 木	木3回	27 土	学校見学会	27 火	火11回	27 木	木15回	27 日		27 水	水3回	27 金	金7回	27 月	月10回	27 水		27 土	学校見学会(保護者)	27 火		27 水	
28 金	金3回	28 日		28 水	水11回	28 金	金15回	28 月		28 木	木3回	28 土	学校見学会 漢字検定	28 火	火11回	28 木		28 日		28 水	再試験発表	28 木	
29 土	昭和の日	29 月	月8回	29 木	木11回	29 土	学校見学会	29 火	再試験発表	29 金	金3回	29 日		29 水	水11回	29 金		29 月	月15回	29 木		29 金	
30 日		30 火	火7回	30 金	金11回	30 日		30 水		30 土	学校見学会	30 月	月6回	30 木	木11回	30 土		30 火	火15回			30 土	
		31 水	水7回			31 月	追試	31 木				31 火	火7回			31 日		31 水	水16回			31 日	
																						※25卒CHISA,IIT合説	
																						※年間講義回数 月 31回 火 31回 水 31回 木 31回 金 31回	
												※25卒性格適正試験		※台風など臨時休校が 多い時は12月3週で 対応		※25卒SPI模試(2回目)							

## 2学年

本校の教育方針	.....	1
評価について／出欠席ルール	.....	3
FJBネットID登録とメールアドレス	.....	4
実習室・インターネット使用上のルール・マナー	.....	4
個人情報保護に関する基本方針	.....	5
教育目標と検定スケジュール	.....	6
オブジェクト指向プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ	小原 和明	..... 7
シスコネットワーク演習	所 兼太郎	..... 9
検定対策応用Ⅰ・Ⅱ	1組:加藤 尚喜、2組:須藤 健一郎	10
高度試験対策講座	森田 秀明	..... 12
スマホアプリ作成演習	松木 栄一	..... 13
システム開発演習	倉持 友也	..... 14
就職講座A	田邊 悦子、遠藤 幹雄	..... 15
就職講座B	松脇 和樹	..... 16
Linuxサーバー構築Ⅰ・Ⅱ	須藤 健一郎	..... 17
Web技術演習Ⅰ・Ⅱ	1組:松脇 和樹、2組:須藤 健一郎	19
Office演習応用Ⅰ・Ⅱ	平山 慶子	..... 21
ソフトウェアテスト基礎	株式会社SHIFT 鈴木 佑介、山中 治樹	23
やってみなはれ演習応用Ⅰ・Ⅱ	1組:加藤 尚喜、2組:須藤 健一郎	24

## 本校の教育方針

船橋情報ビジネス専門学校  
校長 鳥居 高之

### 教育理念「若者をハッピーに」

これが本校の教育理念です。しかし幸せの形は人によって違いますし、卒業式で「はいどうぞ」と手渡しできるものではありません。在学中だけハッピーならよい訳でもありません。その後こそ重要です。従って私たち教職員の使命とは、学生のみなさんが職業人・社会人として豊かな人生を送るために、その土台作りのお手伝いをするという事になります。あくまでも主役は学生本人です。また社会に出てハッピーになる最低条件としては、大人として自立していなければなりません。その自立に欠かせないのが自律です。自律とは自分と闘うということです。ただ欲望や本能のままに行動するなら動物と同じです。すなわち、「自律 → 自立 → ハッピー」という順番です。私達もみなさんのお手伝いに全力を尽くしますが、自立した大人になる独力を忘れないでください。

### 勉強は教わるものではない

初年度のみ先生方は手取り足取り親切に教えてくれます。高校までに自分なりの勉強方法が身に付いていない人もいますからです。しかし2年目からは最後まで教えません。「まずは自分で考えてみなさい」と指導します。なぜでしょうか。将来みなさんが就職する会社に、そんな面倒見のよい上司や先輩がいるのでしょうか。みな仕事を抱えています。社会に出れば自分で勉強するのが当たり前です。質問・相談もできますが、自分で調べて考えるのが大原則です。その姿勢を在学中に身に付けてください。2年生になって先生の態度が変わるのはそのためです。急に厳しくなったと勘違いする学生がいますが、みなさんの真の成長を望んでいるのだということに気付いて欲しいです。

またスピード制限もしていません。もし授業の内容を既に理解していると感じる人は申し出てください。指導教員がそう判断すれば別メニューを設定します。クラス全体に歩調を合わせる必要はありません。どんどん前に進んでください！

### 人間教育の重視

人と接するのが苦手だからコンピュータの仕事に就きたいという学生がいます。大きな勘違いです。コンピュータの向こうには生身の人間がいます。どんなビジネスでも主役は人です。技術や資格ではなく人が仕事をするのです。そして人は一人では生きて行けない生き物です。仕事にせよ日常生活にせよ、常に他者との係わりの中で生きています。本校は単なる就職予備校ではないのです。人間教育を技術教育以上に重視しています。特に次の2つを心がけて欲しいです。

#### 元気に明るく挨拶（あいさつ）

明るい人はみんなに好かれます。明るさの第一歩は、自分から元気に挨拶することです。そのような新入社員は職場でも愛されます。学校の先生方や来校されるお客様に練習台になっていただき、どんどん自分から挨拶しましょう。

#### 3つの守り

本校がとても大切にしている3つの守りとは、「時間を守る、約束を守る、ルールを守る」です。単純ですが、当たり前のことを当たり前にやるのは実は大変なことです。自律できない人は自分と闘えません。つまり自立もできません。

「ルールを守る」に関しては考えて欲しいことがあります。学校生活だけでなく今後の生き方にも係わることです。ルールや法律を守るのは、叱られない罰せられないためでしょうか。世の中を見渡すと、法に触れなければいい、見つからなければいい、と考える者もいます。真の大人になり損ねた、自己中心のニセ大人です。みなさんには、「そんなことをしたら人として、大人として恥ずかしい」と自分を律して行動できる、良識ある職業人・社会人になって欲しいと願っています。以下校内のルールやマナーについて、少し補足しておきます。

## 通学

- (1) バイク・自動車通学全面禁止。
- (2) 自転車は学生課に登録し所定の駐輪場所を利用。

## エレベーター

- (1) 学生はドアの注意書きに従うこと。下りは全面禁止。
- (2) 授業開始前および終了後の5分間は使用禁止。(教員優先)
- (3) 3号館は全面使用禁止。

## 禁煙

教職員、学生、成年、未成年者にかかわらず校内及び天沼公園・学校周辺は全面禁煙。

※船橋駅前から本校までの路上喫煙は条例により禁止され罰金の対象です

## 交通ルール

3号館前の大通りは横断絶対禁止。過去に死亡事故あり。横断歩道を使うこと。

重大なルール違反やマナー違反をした場合は、校長面接の上、停学や退学処分になることもありますので、学生の本分を守り勉学や学校生活に励んでください。なお本校では、学生が直接メールを校長宛に出すことができます。何か要望や相談があれば、いつでもメールしてください。      takatorii@mitsuhashi.ac.jp

以上

## 評価について

- (1) 評価とは成績証明書にS～Dで表現され記載される、その科目の最終的な成績のことを指す。
- (2) 評価は、合計点を用いて算出する。合計点とは、定期試験の素点に授業態度や出席状況、課題提出等の平常点を合計して算出したものである。

評価は以下の基準を用いる。(点または%)

S	90以上
A	80～89
B	50～79
C	40～49
D	39以下

- (3) 評価Dの者は、単位未修得者として処理される。
- (4) 評価Dの者には所定の手続きの後、再試験を実施する。ただし、再試験は特別の場合を除き、レポートに代替する。再試験に合格した場合その科目の評価はCとする。(特別な努力が認められたものは、B評価になることもある。)

## GPA(Grade Point Average)

GPAとは、学生の成績の平均値を表したもので学期ごとにGPAを算出する。算出方法は以下の通り科目の評価(S～Dの5段階)に応じて、4.0～0.0の得点(GP)を設定し、科目ごとの得点(GP)に科目の単位数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を履修科目の総単位数で割り、少数点第二位を四捨五入したものをGPAとする。

なお、GPAを算出するタイミングは各学期の成績発表時点とする。その時点で評価がDの科目のGPは、後日再試験に合格していても0.0となる。

$GPA = \frac{【GP \times 履修科目の単位数】の合計}{履修科目の総単位数}$

## 出欠席ルール

- (1) 遅刻3回で欠課1回、欠課6回(1年生はSHR分の遅刻1回を含む)で1日の欠席とみなし、次の条件で換算する
  - ・SHRの遅刻及び欠席で「遅刻1」※SHRは1年生のみ
  - ・授業開始15分までの入室で「遅刻1」
  - ・授業開始15～45分までの入室で「欠課1」
  - ・授業開始45～60分までの入室で「欠課1+遅刻1」  
※90分授業の前半45分の欠課1、後半15分までの遅刻1という考え方でカウントする
  - ・授業開始60分以降の入室で「欠課2」
- (2) 年間55日の欠席で進級停止、退学勧告。
- (3) 交通機関の乱れによる遅刻の場合は「遅延証明をもらう」。ただしバスは適用外。

レベル	欠席日数	学校側からのアクション	備考
1	無断欠席	担任が自宅へ電話する	
2	累積10日欠席	自宅へ警告書を郵送する	警告書の郵送は累積10日になった時点で行う。
3	累積25日欠席	校長面接を行う	警告書の郵送は累積25日になった時点で行う。
4	累積40日欠席	校長面接において「退学警告」を行う	保護者同伴で行う。
5	累積50日欠席	校長面接において「最終警告」を行う	同上
6	累積55日欠席	①自宅へ退学勧告通知書を郵送する ②掲示板に名前を張り出す	退学を勧告する。

※「退学勧告」とは・・・1ヶ月以内に退学届けを提出すれば「自主退学」扱いとなります。以後は「強制退学処分」とします。

## 卒業認定

以下の条件に基づき学校長と教職員による卒業判定会議を経て学校長に認められた者について卒業を認定する

- (1) 履修した全ての科目において単位修得していること
- (2) 原則として各年度において年間55日以上欠席がないこと

## FJBネットID登録とメールアドレス

### 1. ユーザID登録について

本校では、学生1人ひとりにユーザIDを発行しております。このIDでログインすると、学校内のネットワーク環境が利用できます。課題の保存、教材の受け渡し、メールでのコミュニケーションなどに活用して下さい。

### 2. メールアドレスについて

(1) 科によってメールアドレスが設定されています。

詳細は担任から説明があります。

(2) 「FJBインターネット&イントラネット」画面の「先生へのメール」をクリックして電子メールを活用して下さい。

(3) Webメールでの各個人に与えられている容量は50MBまでです。整理せずに企業からの大切なメールを受理できないケースがありました。不必要なメールはこまめに消去してください。

### 3. 緊急連絡について

クラスの諸連絡、台風や大雪等の休校等の連絡はグループコミュニケーションツールを使用します。(スマートフォンでも使用可能)各自、常に最新の投稿を確認するようにしてください。投稿を確認していない場合、自己責任です。またツールを使用する環境がない場合は担任に申し出てください。

## 実習室・インターネット使用上のルール・マナー

### 1. 実習室の放課後開放について

放課後、午後6時まで実習室を開放します。開放時間中に清掃(清掃時間を入り口に掲示)が入ります。その際は一度退出をお願いします。気持ちよく使えるよう、ご協力ください。

### 2. 実習室に、飲食物は持ち込んではいけません

パソコンは精密な電子機械です。水、粘着質の糖分、細かなゴミ、小さな金属物などを嫌います。実習室では、飲食行為も持ち込みも、厳禁です。

### 3. 本校のパソコンに、ゲーム(その他ソフト)をインストールしてはいけません

雑誌の付録のCD-ROMを持ち込んだり、インターネットでダウンロードしたりして、ゲームなどのソフトを本校のパソコンにインストールしてはいけません。

### 4. USBなどの記憶媒体は必ずウイルスチェックをするようにして下さい

記憶媒体を本校で使用する場合は、監督の先生に申し出てウイルスチェックをしてもらって下さい。その後、許可します。

### 5. 実習ファイルを保存するための領域をIドライブに用意してあります

必要なファイルのみ保存し、常に整理を心がけてください。ゲームファイル、過度な容量のファイルの保存を禁止します。(卒業研究等、必要な場合を除く)

### 6. インターネットを利用して、画像、音楽などを不正使用してはいけません

画像・音楽データなどはすべて、著作権があります。さらに、人物の写真には肖像権、アイドルの写真にはパブリシティ権があります。個人的な利用の範囲を超えて、使用してはいけません。HPやブログに貼り付けることはこれらの権利の侵害で、犯罪行為です。

### 7. インターネットに、非常識な書き込みをしてはいけません

インターネットの世界は、限られた若者のギャグやシャレの場ではありません。善意ある人達の、世界的に開かれた場です。匿名性を利用した破廉恥な書き込みは、卑怯者の行為です。一見匿名ですが、アクセス記録は残りますから、必ず追跡されます。

以上の約束が守れない場合は、指導の対象となります。

また、悪質な場合は、停学・退学を含めた処置を検討します。

**学校法人三橋学園 船橋情報ビジネス専門学校**  
**個人情報保護に関する基本方針（プライバシーポリシー）**

船橋情報ビジネス専門学校

船橋情報ビジネス専門学校は、教育機関としての社会的責任を果たすために、以下の個人情報保護方針(プライバシーポリシー)を定め、教職員およびその他の関係者に周知徹底し、これを実行します。

1. 個人情報の取り扱いについては、教育上または業務上必要な範囲内において利用目的をできるだけ特定した上で、権限を与えられた者のみに許可します。
2. 個人情報に対する不正アクセス、紛失、破壊、改ざんおよび漏えい等を防止するために、適切な安全対策を講じます。
3. 取得した個人情報は、以下の目的に利用します。
  - (1) 本校の授業、検定試験、行事等の通知・連絡・管理を行うため
  - (2) 就職指導および就職活動支援を行うため
  - (3) 入学相談および募集活動を行うため
  - (4) 入学選考試験業務を行うため
  - (5) 各種証明書等の発行業務を行うため
  - (6) 上記のほか、教育上必要と判断される業務や活動を行うため
4. 本校は以下のような場合において、必要とされる範囲内で個人情報を関係者または第三者に提供もしくは公開することがあります。
  - (1) 在学生の保護者に対し、本人の学業成績、出欠席状況、資格取得状況等の提供
  - (2) 在学生もしくは卒業生の出身校に対し、本人の出欠席状況、資格取得状況、就職状況等の提供
  - (3) 学内での定期試験合格者、資格取得者、就職内定者情報等の公開
  - (4) 就職指導室における、在学生もしくは卒業生の就職先、就職活動記録等の公開
  - (5) 本校への入学希望者に対する、在学生もしくは卒業生の就職または就職内定先情報および、学校案内や本校ホームページに記載されている情報等の提供
  - (6) 上記のほか、本校の教育上もしくは業務上必要と判断される場合
5. 上記以外の利用目的で個人情報を収集する場合は、別途本人および保護者に通知します。
6. 以上のように、本校による関係者および第三者への個人情報の提供は、教育上もしくは業務上必要であると判断した上で行っておりますが、希望しない場合は所定の手続による請求をすることで停止できます。

個人情報の開示、訂正、利用停止の請求および取り扱いに対する問い合わせは下記までお願いします。

校長 鳥居 高之  
047-425-1051  
takatorii@mitsuhashi.ac.jp



ITエンジニア科	2年
----------	----

【前期】

科目	オブジェクト指向プログラミング演習 I	分類	専門、必修科目
担当	小原 和明		
テキスト (出版社)	スッキリわかるサーブレット&JSP入門(インプレス)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

<b>1. 授業の概要</b>
JSP、Servlet、HTML5&CSSなど、現在のWEBシステムで利用されているさまざまな技術を学習する。 Javaプログラミングの実践的な知識を学び、アプリケーション開発の基礎を身につける。
<b>2. 授業の目標(検定取得など)</b>
問題解決にあたってのアルゴリズムや実装方法、2年後期のシステム開発演習で使用する知識やスキルを習得する。
<b>3. 注意点・要望</b>
積み上げによる学習が大事なので、基礎をおろそかにせず、一つ一つ着実に身につけてから進むこと。 自分の頭と手を動かし、複数の技術を連携させたシステムを完成させてほしい。
<b>4. 関連科目</b>
オブジェクト指向プログラミング演習Ⅱ、システム開発演習

週	テーマ	内容
1	第1章 HTMLとWEBページ(1)	開発環境の設定
2	第1章 HTMLとWEBページ(2)	Webアプリ開発に向けた開発環境の理解とHTML等の基礎演習(1)
3	第1章 HTMLとWEBページ(3)	Webアプリ開発に向けた開発環境の理解とHTML等の基礎演習(2)
4	第4章 JSPの基礎(1)	JSPの基礎知識
5	第4章 JSPの基礎(2)	JSPの構成要素
6	第4章 JSPの基礎(3)	JSPの練習問題(1)
7	第4章 JSPの基礎(4)	JSPの練習問題(2)
8	第3章 サーブレットの基礎(1)	サーブレットの基礎知識
9	第3章 サーブレットの基礎(2)	アクセススコープ、例外の制御
10	第3章 サーブレットの基礎(3)	サーブレットの練習問題(1)
11	第3章 サーブレットの基礎(4)	サーブレットの練習問題(2)
12	第5章 フォーム(1)	リクエストパラメータの取得(1)
13	第5章 フォーム(2)	リクエストパラメータの取得(2)
14	第5章 フォーム(3)	JSPとサーブレットの連携
15	前期試験期間	-

備考	システム開発経験のある教員が、WEBシステム開発に必要なプログラミング技術の演習を行う。
----	--

科目	オブジェクト指向プログラミング演習Ⅱ	分類	専門、必修科目
担当	小原 和明		
テキスト (出版社)	スッキリわかるサーブレット&JSP入門(インプレス)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

## 1. 授業の概要

Webアプリ開発で重要となるデータの管理を学習し、OracleDB、JSP、Servletを連携させたシステムが構築できるようになる。

## 2. 授業の目標(検定取得など)

IT業界の中で多く使われているWebアプリケーションを開発する知識と能力を身に付ける。

## 3. 注意点・要望

積み上げによる学習が大事なので、基礎をおろそかにせず、一つ一つ着実に身に付けてから進むこと。  
自分の頭と手を動かし、複数の技術を連携させたシステムを完成させてほしい。

## 4. 関連科目

オブジェクト指向プログラミング演習Ⅰ、システム開発演習

週	テーマ	内容
1	前期の復習(1)	開発環境およびWEBアプリ開発の準備(1)
2	前期の復習(2)	開発環境およびWEBアプリ開発の準備(2)
3	第6章 MVCモデル(1)	MVCモデル、JSPとServletの連携(1)
4	第6章 MVCモデル(2)	MVCモデル、JSPとServletの連携(2)
5	第6章 MVCモデル(3)	MVCモデル、JSPとServletの連携(3)
6	第8章セッションスコープ(1)	セッションの利活用(1)
7	第8章セッションスコープ(2)	セッションの利活用(2)
8	第8章セッションスコープ(3)	セッションの利活用(3)
9	第10章 アプリケーション作成(1)	簡易掲示板の作成(1)
10	第10章 アプリケーション作成(2)	簡易掲示板の作成(2)
11	第10章 アプリケーション作成(3)	簡易掲示板の作成(3)
12	第10章 アプリケーション作成(4)	簡易掲示板の作成(4)
13	DB連携(1)	サーブレットからDBを利用する、簡易掲示板の改良(1)
14	DB連携(2)	サーブレットからDBを利用する、簡易掲示板の改良(2)
15	DB連携(3)	サーブレットからDBを利用する、簡易掲示板の改良(3)
16	後期試験期間	-

## 備考

システム開発経験のある教員が、WEBシステム開発に必要なプログラミング技術の演習を行う。

科目	シスコネットワークング演習	分類	専門、必修科目
担当	所 兼太郎		
テキスト (出版社)	本校のオリジナルテキスト Cisco CCNA 完全合格テキスト&問題集 200-301(翔泳社)		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	6
	20%	0%	0%	0%	40%	40%	100%		

### 1. 授業の概要

シスコ・ネットワークアカデミーのカリキュラムをベースに、ネットワーク技術者(もしくはネットワークインフラに詳しいシステムエンジニア)として必要とされる知識と技能を修得する。

### 2. 授業の目標(検定取得など)

シスコ技術者認定試験(CCNA)の合格、ネットワークエンジニアに求められる高度な技術知識の習得。

### 3. 注意点・要望

CCNA試験は、国家試験と異なり合格に必要な点数が高く深い理解が求められます。知識を曖昧なままにしないよう復習を行って下さい。夏期に試験対策講座を実施します。

### 4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	導入、1年時の復習 OSI参照モデル(1)	CCNA試験合格までのスケジュール IPアドレス計算、1年生で習った内容の復習、レイヤ3 ネットワーク層
2	OSI参照モデル(2)	レイヤ3 ネットワーク層
3	OSI参照モデル(3)	レイヤ4 トランスポート層、レイヤ5 セッション層
4	OSI参照モデル(4) Ciscoデバイスの管理(1)	レイヤ6 プレゼンテーション層、レイヤ7 アプリケーション層、TCP/IPモデル、ルータ内部のコンポーネント、ルータの設定
5	Ciscoデバイスの管理(2) ネットワークデバイスの管理とセキュリティ	ルータの設定、イーサネットLAN、CiscoIOSソフトウェアの操作、Ciscoルータの導入、スイッチのセキュリティ機能
6	ネットワークデバイスの管理 Catalystスイッチの導入	CDPとLLDP、Telnetコマンド、コンフィギュレーションファイルの管理、パスワードリカバリ、NTP
7	ルーティングの基礎	スタティックルーティング、ダイナミックルーティング、メトリックとアドミニストレーティブディスタンス
8	VLSM インターネット接続	VLSMと経路集約、DHCPによるインターネット接続
9	ACL(アクセスコントロールリスト) NATとPAT	ACL、NATの設定、PATの設定、NAT及びPATの検証
10	VLANとVLAN間ルーティング STP(スパンニングツリープロトコル)	VLANの概要と動作、スタティックVLAN、音声VLAN、STPの概要と動作、PVST+、PortFastとBPDUガード、IEEE802.1w、RSTP
11	ファーストホップの冗長化 OSPF	ファーストホップの冗長化、OSPFの特徴、階層化設計、動作、ネットワークタイプ、基本設定、検証、オプション設定、トラブルシューティングにおける着眼点
12	EtherChannel、PoE Qos、IPv6	バンドルの条件、オートネゴシエーション、EtherChannelの設定、PoE、QoS、IPv6
13	WAN、VPN、クラウドサービス ネットワーク設計モデル	WANサービスとVPN、クラウドサービス、ネットワーク設計モデル
14	WLAN、セキュリティ、自動化、仮想化 SNMP、トラブルシューティング	ワイヤレスLAN、セキュリティ、ネットワークの自動化とSDN、サーバの仮想化、SNMP、トラブルシューティング
15	前期試験期間	効果測定

備考

-

科目	検定対策応用 I	分類	専門、必選科目
担当	1組:加藤 尚喜、2組:須藤 健一郎		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	0%	0%	50%	50%	100%		

## 1. 授業の概要

各自目標を設定し、その目標に向けて学習を進める。

## 2. 授業の目標(検定取得など)

シスコ技術者認定試験CCNA、国家試験、その他検定試験の合格。

## 3. 注意点・要望

それぞれの進捗に合わせた内容となるため目標を明確に決めること。

## 4. 関連科目

シスコネットワークキング演習、検定対策応用Ⅱ、高度試験対策講座

週	テーマ	内容
1	目標設定	各自が将来的に必要な資格を決め、目標設定のためのレポートを作成する。
2	面談(1) 検定に向けた学習(1)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(1)
3	面談(2) 検定に向けた学習(2)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(2)
4	面談(3) 検定に向けた学習(3)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(3)
5	面談(4) 検定に向けた学習(4)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(4)
6	面談(5) 検定に向けた学習(5)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(5)
7	面談(6) 検定に向けた学習(6)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(6)
8	面談(7) 検定に向けた学習(7)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(7)
9	面談(8) 検定に向けた学習(8)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(8)
10	面談(9) 検定に向けた学習(9)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(9)
11	面談(10) 検定に向けた学習(10)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(10)
12	面談(11) 検定に向けた学習(11)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(11)
13	面談(12) 検定に向けた学習(12)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(12)
14	面談(13) 検定に向けた学習(13)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(13)
15	前期試験期間	-

備考

-

科目	検定対策応用Ⅱ	分類	専門、必修科目
担当	1組:加藤 尚喜、2組:須藤 健一郎、松脇 和樹		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	6
	0%	0%	0%	0%	50%	50%	100%		

## 1. 授業の概要

各自目標を設定し、その目標に向けて学習を進める。

## 2. 授業の目標(検定取得など)

シスコ技術者認定試験CCNA、国家試験、その他検定試験の合格。

## 3. 注意点・要望

それぞれの進捗に合わせた内容となるため目標を明確に決めること。

## 4. 関連科目

シスコネットワークング演習Ⅰ・Ⅱ、検定対策応用Ⅰ、高度試験対策講座

週	テーマ	内容
1	目標設定	前期の振り返りと、後期の目標設定をするためのレポートを作成する。
2	面談(14) 検定に向けた学習(14)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(14)
3	面談(15) 検定に向けた学習(15)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(15)
4	面談(16) 検定に向けた学習(16)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(16)
5	面談(17) 検定に向けた学習(17)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(17)
6	面談(18) 検定に向けた学習(18)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(18)
7	面談(19) 検定に向けた学習(19)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(19)
8	面談(20) 検定に向けた学習(20)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(20)
9	面談(21) 検定に向けた学習(21)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(21)
10	面談(22) 検定に向けた学習(22)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(22)
11	面談(23) 検定に向けた学習(23)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(23)
12	面談(24) 検定に向けた学習(24)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(24)
13	面談(25) 検定に向けた学習(25)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(25)
14	面談(26) 検定に向けた学習(26)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(26)
15	面談(27) 検定に向けた学習(27)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う。 各自が決めた検定に向けての学習(27)
16	後期試験期間	-

備考

-

ITエンジニア科	2年
----------	----

【前期】

科目	高度試験対策講座	分類	専門、必選科目
担当	森田 秀明		
テキスト (出版社)	オリジナル教材		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	0%	50%	0%	50%	100%		

- 1. 授業の概要**  
 情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に着ける。  
 講義→演習問題→演習問題について解説という形で進行する。一部の演習問題は全員で解答を検討する。
- 2. 授業の目標(検定取得など)**  
 情報処理安全確保支援士の午後Ⅰ・午後Ⅱ問題に自力で取り組めるだけの基礎知識・解答力を身に着ける。  
 応用情報技術者試験の午後問題(セキュリティ分野)で高得点を取れるだけの実力を身に着ける。
- 3. 注意点・要望**  
 演習問題は模範解答を覚えても力がつきません。必ず自分の頭で考え、正解できなくても良いので自分の言葉で答えを書くこと(空欄・無回答を作らない)。演習問題集を範囲とした確認テスト(期末)を行います。
- 4. 関連科目**  
 -

週	テーマ	内容
1	ガイダンス、ネットワークの基礎知識 情報セキュリティの概念	この教科について、情報処理安全確保支援士の試験制度、学習方法 ポート番号、NAPT、情報セキュリティの3要素、リスクマネジメント、BCP(事業継続計画)
2	情報セキュリティ関連機関・法規 脅威(1)	情報セキュリティ関連機関、CVSS、情報処理関連法規(特に不正競争防止法) マルウェアの書類、攻撃ツール、C&Cサーバとコネクトバック通信、マルウェア感染
3	脅威(2)	マルウェア対策ソフト、マルウェアの特徴の把握、中間者攻撃、標的型攻撃、 ドライブバイダウンロード攻撃・Dos攻撃などその他の攻撃手法
4	脆弱性対策 暗号化(1)	脆弱性診断、ゼロデイ攻撃、脆弱性修正プログラムの適用、共通鍵暗号と公開鍵暗号、 危殆化、暗号アルゴリズム、暗号解読法、暗号アルゴリズムの安全性
5	暗号化(2) 無線LAN	ブロック暗号アルゴリズム、ハッシュ関数、レインボー攻撃とソルトの役割 無線LANの基礎、無線LANのセキュリティ
6	PKI(1)	PKIの構成要素、デジタル証明書フォーマット、クライアント証明書 サーバ証明書、ドメイン認証証明書、EV証明書
7	PKI(2)	PKIの動作、デジタル署名の検証、証明書の失効、ルート認証局 コモンネームの検証、SSL/TLS、HSTS、中間確認テスト
8	認証とアクセスコントロール(1)	識別・認証・認可、アクセス権付与の原則、特権ID、アカウントの適切な管理、LDAP パスワードクラッキング、パスワード管理の留意点(利用者・管理者)
9	認証とアクセスコントロール(2)	ワンタイムパスワード、クライアント証明書による認証、RADIUS、リスクベース認証 Kerberos認証、バイオメトリクス認証、SSOとは、SAML
10	時刻認証 VPN	時刻認証の基礎知識、デジタル署名方式、タイムアーカイビング方式、タイムスタンプの 有効期限と長期保存、プライベートネットワークとは、NPNとは、IPSec、SSH
11	セキュリティアプライアンス	ファイアウォール、アクセスコントロールリスト、ファイアウォールで防げない攻撃 運用管理セグメント、IDS、IPS、WAF、UTM
12	サーバセキュリティ	サーバ全般のセキュリティ、Webサーバのセキュリティ、DNSサーバのセキュリティ、 DNSキャッシュポイズニング攻撃、DNSリフレクション攻撃、プロキシサーバのセキュリティ、リバースプロキシ
13	電子メールのセキュリティ ICカード・クレジットカード	電子メールの構造、電子メールエージェント、電子メールプロトコル、オープンリレー防止、送 新者認証、OP25B、送信ドメイン認証、ページフィルタリング、情報漏えい防止機能 ICカードに対する脅威と要件、PINによるホルダ認証、耐タンパ製、PCI DSS
14	セキュアプログラミング ログ	XSS(格納型、反射型、DOMベース)、XSSの脆弱性診断方法、サニタイジング、SQLインジェクション、バッファ オーバーフロー、クロスサイトリクエストフォージェリ、その他の攻撃手法、ログ管理の要点、ログ取得の目的、ロ グ管理の留意点、複数機器にまたがるログの分析、Syslog、HTTPアクセスのステータスコード
15	前期試験期間	学期末確認テスト

備考	通信キャリアでネットワークエンジニアとして勤務していた教員が、セキュリティ技術について講義する。
----	--

科目	スマホアプリ作成演習	分類	専門、必修科目
担当	松木 栄一		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	Web等		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	6
	0%	0%	60%	0%	0%	40%	100%		

## 1. 授業の概要

スマホアプリ作成に必要な基礎知識と関連技術を学ぶ。

## 2. 授業の目標(検定取得など)

スマホアプリ作成に必要な広範に渡る知識と技術に触れ 後期システム開発演習に臨む基礎力を身に付ける。

## 3. 注意点・要望

スマホアプリと謳ってはいるが 現況を鑑み 実際にはWeb,HTML5をベースとしたクロスプラットフォーム開発を中心に学ぶ。

## 4. 関連科目

システム開発演習

週	テーマ	内容
1	導入	授業解説 環境説明 操作練習
2	Web制作入門(1)	Webのしくみ Webページとは HTML,CSS,JavaScriptの基礎とそれぞれの役割
3	Web制作入門(2)	オブジェクトとは何か イベント駆動とプロパティの動的書き換えについて
4	データ表現とデータ構造	JavaScriptを意識したコンピューターデータとデータ構造について
5	グラフィックス(1)	画像・画面に関する基礎知識 データ形式と座標 レンダリングとは
6	グラフィックス(2)	グラフィックスデザインとレイアウト スマホを意識したUI・UXとは
7	制作演習(1)	課題作成演習(1)
8	制作演習(2)	課題作成演習(2)
9	データの記録と保持	データの記録場所と記録方法 クライアントとサーバー ファイルとデータベース 他
10	Webアプリケーション	Webアプリとは何か プロトコルとデータ通信 サーバーサイドスクリプティング
11	制作演習(3)	課題作成演習(3)
12	制作演習(4)	課題作成演習(4)
13	スマホアプリ(1)	スマホアプリとは何か 様々なプラットフォームと開発フレームワーク
14	スマホアプリ(2)	デバイスとセキュリティ 開発環境 頒布の形態と収益モデル
15	総括	振り返りとまとめ 課題提出

備考

-

ITエンジニア科	2年
----------	----

【後期】

科目	システム開発演習	分類	専門、必修科目
担当	倉持 友也		
テキスト (出版社)	Monacaで学ぶはじめてのプログラミング～モバイルアプリ入門編～(アシアル株式会社)		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	6
	0%	0%	60%	0%	0%	40%	100%		

<b>1. 授業の概要</b>
システムエンジニア・プログラマの仕事に関する実務的な演習として、グループごとにシステム(スマホアプリ)の開発を行うことにより、システムの開発工程の実践と成果物のプレゼンテーション方法を学ぶ。
<b>2. 授業の目標(検定取得など)</b>
システム開発ではプログラミング能力やITスキル以上に、顧客視点、プレゼンテーション能力、設計能力、見やすい資料の作成、管理能力、チームワーク、問題解決力が重要であり、本授業を通してそれらを身に付けることを目標とする。
<b>3. 注意点・要望</b>
システムの完成だけに捉われず、社会人としてどういった行動を取るべきかを常に意識して取り組んで欲しい。具体的には、「チームに対して自分から発信する」「作業に優先度をつける」「問題発生時に速やかに報告する」などを意識すること。
<b>4. 関連科目</b>
スマホアプリ作成演習、Web技術演習Ⅰ・Ⅱ

週	テーマ	内容
1	企画・分析工程(1)	現状調査、課題の発見、システムの提案
2	企画・分析工程(2)	ターゲット層、開発コンセプトの設定、開発する商品(アプリ)の魅力を伝える
3	プロトタイプシステムの実装(1)	画面のプロトタイプを作成
4	プロトタイプシステムの実装(2)	設計書やプロトタイプ画面を元に、アプリの動作を実装
5	プレゼンテーション	プロトタイプアプリを使い、企画案、画面・機能のプレゼンテーションを行う
6	設計工程(1)	画面、機能、動作の見直しを行い、システムのブラッシュアップを図る(1)
7	設計工程(2)	画面、機能、動作の見直しを行い、システムのブラッシュアップを図る(2)
8	設計工程(3)	画面遷移図、クラス図などの設計書の作成および技術調査(1)
9	設計工程(4)	画面遷移図、クラス図などの設計書の作成および技術調査(2)
10	中間報告	システム開発状況の中間報告のプレゼンテーションを行う
11	開発工程(1)	設計書を元にシステム開発を行う(1)
12	開発工程(2)	設計書を元にシステム開発を行う(2)
13	開発工程(3)	設計書を元にシステム開発を行う(3)
14	テスト工程	設計書を元にシステム開発を行う(4)
15	完成報告	システム完成報告プレゼンテーション
16	後期試験期間	-

備考	業務システム開発経験のある教員が、スマホアプリの企画から実装までの演習を行う。
----	---

科目	就職講座A	分類	教養、必修科目
担当	田邊 悦子、遠藤 幹雄		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	40%	20%	0%	40%	100%		

## 1. 授業の概要

就職活動の流れを知り、自己分析や企業研究ができる力を身につける。  
内定をいただくためにやるべきこと、必要なことを考える。

## 2. 授業の目標(検定取得など)

- ①社会人としての伸びしろが感じられる自己PRの完成 ②企業を選びに必要な視点の整理  
③就職活動における基本マナーの習得

## 3. 注意点・要望

授業課題は、①履歴書 ②メール ③自己PR ④イベントのレポート で評価  
就職活動は教室で完結するものではないので、実際の活動(イベントへの参加)も授業の一環として進めていきます。

## 4. 関連科目

就職講座B

週	テーマ	内容
1	就職活動の流れ	ともに働きたい人、新卒の就職活動、新卒採用の特権、就職活動スケジュール 授業の目的、就職指導室の利用、Teamsの利用、学科担当教員の紹介
2	内定までの流れ&メールと電話	内定までの流れ、企業とのやりとり、メールの基本、電話の基本 就職活動時の手続き(活動申請、就職活動カード、受験報告書)
3	企業が求める人物像	グループディスカッションとそのポイントと実践、専門学校生の武器
4	エントリーの準備	履歴書とエントリーシート、就職活動支援サイト、自己分析 求人票検索システムの使い方(1)
5	履歴書の作成	書き方のポイント、学校指定フォーマットでの履歴書作成(Wordを使用)
6	自己PRの作成	自己PRのポイント、自己PRの構成と要素、気をつけたい言葉 会社を示す言葉作成作業
7	企業研究のポイント(1)	業種の分類、主たるIT企業、取引形態、職種とは、業界・企業研究の資料 求人票検索システムの使い方(2)
8	企業研究のポイント(2)	求人票、自己申告書・青少年雇用情報シート、自己申告書
9	企業研究のポイント(3)	Slerの分類、Slerの職種、IT系以外の職種
10	企業研究のポイント(4)	企業研究の目的、志望動機のポイント、企業研究と併せて必要なこと ホームページを使った企業研究のポイント、志望職種を考える。
11	求職登録、就活支援サイトの活用 学校求人の確認	就職先の希望、必要となる条件等のアンケート 就活支援サイト「マイナビ」の使い方、2025卒向け求人票の確認
12	面接対策(1)	挨拶の基本、身だしなみ、面接対策動画の視聴
13	面接対策(2)	面接試験の種類、面接の流れと評価のポイント、面接試験前・本番・終了後 集団面接練習の準備(面接対策シートの作成)、Web面接に必要な準備
14	面接対策(3)	メラビアン法則、ハロー効果、zoomの使用(サインイン、名前の変更) 面接練習、面接対策シートの見直し
15	春休み期間中の活動に向けて	学校求人の活用方法(システム、チラシ、指導室応募求人) 今後の就活イベントの案内、面接練習
16	後期試験期間	-

## 備考

IT関連の業務経験と就職指導経験のある職員(職業紹介責任者)が、その経験に基づいて、就職活動全般及び個別の事例について、講義と指導を行う。

ITエンジニア科	2年
----------	----

【前期】

科目	就職講座B	分類	教養、必修科目
担当	松脇 和樹		
テキスト (出版社)	これが本当のSPI3だ！2025年度版(講談社) これが本当のCAB・GABだ！2025年度版(講談社)		
参考資料	配布プリント		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	30%	0%	20%	10%	0%	40%	100%		

<b>1. 授業の概要</b>
就職試験の第一次選考等で用いられるテスト(SPI、CAB・GAB)対策。
<b>2. 授業の目標(検定取得など)</b>
SPIの非言語能力分野(主に計算問題)に焦点を当てたSPI対策およびCAB・GAB対策を行う。また人と話す力の向上を目指す。
<b>3. 注意点・要望</b>
授業資料および教科書を使用し、反復学習を心がけること。また、言語分野においては自主的に学習しておくこと。業界、企業研究の発表は「授業課題」としての評価とするので、必ず仕上げること。
<b>4. 関連科目</b>
就職講座A

週	テーマ	内容
1	SPI非言語能力問題対策(1)	オリエンテーション/自己紹介
2	SPI非言語能力問題対策(2)	仕事算/鶴亀算
3	SPI非言語能力問題対策(3)	損益算/速さ・時間・距離
4	SPI非言語能力問題対策(4)	小テスト/自己分析
5	SPI非言語能力問題対策(5)	順列・組み合わせ
6	SPI非言語能力問題対策(6)	確率
7	SPI非言語能力問題対策(7)	代金の生産/割合・比
8	SPI非言語能力問題対策(8)	小テスト/履歴書
9	SPI非言語能力問題対策(9)	集合/推論
10	CAB試験対策(1)	暗算/法則性
11	CAB試験対策(2)	命令表
12	CAB試験対策(3)	暗号
13	企業研究(1)	パワーポイントにまとめた内容の作成
14	企業研究(2)	パワーポイントにまとめた内容の発表
15	前期試験期間	効果測定

備考	-
----	---

科目	Linuxサーバー構築 I	分類	専門、必修科目
担当	須藤 健一郎		
テキスト (出版社)	Linux標準教科書ver3.0.4 (LPI-JAPAN)		
参考資料	データ教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	60%	0%	0%	40%	100%		

### 1. 授業の概要

CentOSを用いてOSの役割やLinuxについて学び、Linuxの操作コマンドを修得する。  
Linuxを通じて、世の中のサーバの利用目的を知り、サーバがどう立てられ、準備されるのかを学ぶ。

### 2. 授業の目標(検定取得など)

世の中のサーバについて、設定方法を理解し、サーバの概念的知識と運用上の知識に精通し、ある程度の説明をできるようにする。  
主に、就職先を選ぶ際の幅を広げられるよう、企業が話している内容についていけることも目標の一つとして掲げる。

### 3. 注意点・要望

世の中のITを支えている技術を知ることがテーマです。知ることの楽しみを知った上で、操作し、構築することの楽しみにつなげてください。そのためにも、分からない所はしっかりと質問するようお願いいたします。

### 4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	第1章 Linuxとは 第2章 Linuxのインストール	ガイダンス、Linux概要、仮想マシンの作成 仮想マシンへのCentOSのインストール
2	第3章 基本的なコマンド	基本的なコマンドの確認
3	第4章 正規表現とパイプ	正規表現の使い方とパイプ
4	第5章 基本的なコマンド2	基本的なコマンドの確認
5	第6章 viエディタ	viエディタの使い方
6	第7章 管理者の仕事	管理者として行うべきこと
7	第8章 ユーザ権限とアクセス権	ユーザ権とアクセス権の管理
8	第9章 シェルスクリプト	シェルスクリプトの概要と操作
9	第10章 ネットワークの設定と管理	ネットワークの設定
10	第11章 プロセス管理	起動しているプロセスの確認と停止
11	第12章 ファイル管理	ファイルの操作と管理
12	コマンド操作応用(1)	サーバにアクセスし、課題解決に必要なコマンド操作を行う(1)
13	コマンド操作応用(2)	サーバにアクセスし、課題解決に必要なコマンド操作を行う(2)
14	コマンド操作応用(3)	サーバにアクセスし、課題解決に必要なコマンド操作を行う(3)
15	前期試験期間	-

備考

-

科目	Linuxサーバー構築Ⅱ	分類	専門、必修科目
担当	須藤 健一郎		
テキスト (出版社)	Linux標準教科書ver3.0.4 (LPI-JAPAN)		
参考資料	データ教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	60%	0%	0%	40%	100%		

### 1. 授業の概要

CentOSを用いてOSの役割やLinuxについて学び、Linuxの操作コマンドを修得する。  
Linuxを通じて、世の中のサーバの利用目的を知り、サーバがどう立てられ、準備されるのかを学ぶ。

### 2. 授業の目標(検定取得など)

後期は仮想マシンを利用した構築演習を実施する。  
前期の流れを踏まえ、1からサーバ構築を独力で実施できるだけのスキルを持つことが後期の目標となる。

### 3. 注意点・要望

前期で学んだことの集大成となる後期授業です。基本的なLinuxサーバの構築が自身で出来ることが理想ですが、足が止まってしまっは意味がありません。自身の学習ペースを意識しながら、やる気を失う前にご質問ください。

### 4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	基本的なサービス	SSH、FTP、telnetなどのインストール・設定・起動
2	Webサーバ	Webサーバの概要とインストール・設定・起動
3	DNS(1)	DNSの概要とインストール・設定・起動
4	DNS(2)	キャッシュサーバ、ゾーン設定
5	ファイル共有サーバ(1)	ファイル共有サーバの概要とインストール・設定・起動
6	ファイル共有サーバ(2)	ファイル共有サーバのセキュリティ
7	データベースサーバ	データベースサーバの概要とインストール・設定・起動
8	メールサーバ	メールサーバの概要とインストール・設定・起動
9	認証サーバ	認証サーバの概要とインストール・設定・起動
10	仮想マシン構築・運用(1)	指定した条件で仮想マシンの構築・運用を行う(1)
11	仮想マシン構築・運用(2)	指定した条件で仮想マシンの構築・運用を行う(2)
12	仮想マシン構築・運用(3)	指定した条件で仮想マシンの構築・運用を行う(3)
13	仮想マシン構築・運用(4)	指定した条件で仮想マシンの構築・運用を行う(4)
14	仮想マシン構築・運用(5) 構築運用のコマンド解説(1)	指定した条件で仮想マシンの構築・運用を行う(5) 条件を満たすコマンドの解説(1)
15	構築運用のコマンド解説(2)	条件を満たすコマンドの解説(2)
16	後期試験期間	-

備考

-

ITエンジニア科	2年
----------	----

【前期】

科目	Web技術演習 I	分類	専門、必修科目
担当	1組:松脇 和樹、2組:須藤 健一郎		
テキスト (出版社)	初心者からちゃんとしたプロになる JavaScript基礎入門(エムディエヌコーポレーション)		
参考資料	データ教材、プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	30%	0%	30%	0%	0%	40%	100%		

<b>1. 授業の概要</b>
HTMLとCSSの基礎知識と、テキストエディタによるコーディング作業を学習する。
<b>2. 授業の目標(検定取得など)</b>
Web制作のフローに沿って、Webサイトを制作する力を身につけると共に、正しいコーディングの基本を身に着ける。
<b>3. 注意点・要望</b>
コーディングのルールを守り、見やすいHTML・CSSファイルにしましょう。また、課題の提出期限を守りましょう。
<b>4. 関連科目</b>
オブジェクト指向プログラミング演習 I・II、スマホアプリ作成演習

週	テーマ	内容
1	Web・HTMLの概要	講義計画の説明、テキストエディタの設定、Webの仕組み、HTML文書の構造とタグの書き方
2	HTML文書の作成(1)	HTMLによるマークアップ 各種要素の使い方(1)
3	HTML文書の作成(2)	HTMLによるマークアップ 各種要素の使い方(2)
4	CSSの概要/CSSによる装飾(1)	CSSの基本書式、各種プロパティとセレクタの使い方(1)
5	CSSの概要/CSSによる装飾(2)	CSSの基本書式、各種プロパティとセレクタの使い方(2)
6	課題制作 ～好きなテーマ～(1)	これまでに学んだ内容で簡単なページを制作する(1)
7	課題制作 ～好きなテーマ～(2)	これまでに学んだ内容で簡単なページを制作する(2)
8	課題制作 ～好きなテーマ～(3)	これまでに学んだ内容で簡単なページを制作する(3)
9	構造を作るHTML	セクションコンテンツに含まれるHTML要素について
10	課題制作 ～設計に沿って～(1)	設計通りにページを作成する(1)
11	課題制作 ～設計に沿って～(2)	設計通りにページを作成する(2)
12	ランディングページ ワイヤーフレーム	ランディングページの特徴やワイヤーフレームの構築について
13	JSの概要/JSの基礎(1)	JavaScriptがどこでどうやって使われるものかを知り、基本的な知識を身に着ける(1)
14	JSの概要/JSの基礎(2)	JavaScriptがどこでどうやって使われるものかを知り、基本的な知識を身に着ける(2)
15	前期試験期間	効果測定

備考	-
----	---

科目	Web技術演習Ⅱ	分類	専門、必修科目
担当	須藤 健一郎		
テキスト (出版社)	初心者からちゃんとしたプロになる JavaScript基礎入門(エムディエヌコーポレーション)		
参考資料	データ教材、プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	30%	0%	30%	0%	0%	40%	100%		

### 1. 授業の概要

前期に学習した内容をより実践的に活用できるようになることと、JavaScriptの技術を学習することで、フロントエンド開発に対応できる人材として成長を遂げる。

### 2. 授業の目標(検定取得など)

JavaScriptを活用し、コンソールやドキュメントへ変化を加えるプログラミングを出来るようにし、最終的にはフレームワークの活用までを実施する。

### 3. 注意点・要望

Web技術は、色やレイアウトといったある程度のデザイン的な観点も必要となる部分もあります。また、“見栄え”を意識したコーディングを心掛けるようにすることで、共同開発も出来るようになりますので、「ただ技術を覚える」にならないようご注意ください。

### 4. 関連科目

オブジェクト指向プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ、スマホアプリ作成演習

週	テーマ	内容
1	Webアプリケーション基礎(1) Lesson1 JavaScriptの基本	JavaScriptを書いてみよう!
2	Webアプリケーション基礎(2) Lesson1 JavaScriptの基本	変数を利用して、数値や文字を扱ってみよう!
3	Webアプリケーション基礎(3) Lesson1 JavaScriptの基本	条件分岐でプログラムに変化を付けよう!
4	Webアプリケーション基礎(4) Lesson1 JavaScriptの基本	配列を利用して繰り返しプログラムを作ろう!
5	Webアプリケーション基礎(5) Lesson1 JavaScriptの基本	繰り返しプログラム応用編!
6	Webアプリケーション基礎(6) Lesson1 JavaScriptの基本	関数を使ってみよう!
7	Webアプリケーション基礎(7) Lesson2 JavaScriptのオブジェクト	日付を扱ってみよう!
8	Webアプリケーション基礎(8) Lesson2 JavaScriptのオブジェクト	タイマーを作ろう!
9	Webアプリケーション基礎(9) Lesson2 JavaScriptのオブジェクト	連想配列を扱おう!
10	Webアプリケーション基礎(10) Lesson2 JavaScriptのオブジェクト	複雑なプログラムを作ってみよう!
11	Webアプリケーション実践(1) Lesson3 Todoアプリ制作	オブジェクトを活用して、ToDoアプリを作ってみよう!(1)
12	Webアプリケーション実践(2) Lesson3 Todoアプリ制作	オブジェクトを活用して、ToDoアプリを作ってみよう!(2)
13	Webアプリケーション実践(3) Lesson4 フレームワーク基礎	フレームワークの基本編として、フレームワークを活用しよう!(1)
14	Webアプリケーション実践(4) Lesson5 フレームワーク基礎	フレームワークの基本編として、フレームワークを活用しよう!(2)
15	Webアプリケーション実践(4) Lesson5 フレームワーク実装	Vue.js実装編として、Webでよく見る機能を作ってみよう!
16	後期試験期間	効果測定

備考

-

ITエンジニア科	2年
----------	----

【前期】

科目	Office演習応用 I	分類	専門、必修科目
担当	平山 慶子		
テキスト (出版社)	Access2019入門(プリント教材)		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	65%	0%	0%	35%	100%		

<b>1. 授業の概要</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Excel: 会社でよく使われる機能を中心に、基本機能を確認し、応用機能を学ぶ。</li> <li>・Access: 基本を学ぶ。</li> </ul>
<b>2. 授業の目標(検定取得など)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Excel: 機能を知っているだけでなく、ビジネスの現場で「使える」「使いこなせる」をめざす。</li> <li>・Access: 仕組みを理解する。</li> </ul>
<b>3. 注意点・要望</b>
毎回授業で説明した内容に対する問題を出すので、遅刻をしないように注意
<b>4. 関連科目</b>
-

週	テーマ	内容
1	Excel(1)	授業の年間予定、進め方 書式設定、計算式
2	Excel(2)	グラフ
3	Excel(3)	順位と並べ替え
4	Excel(4)	条件による結果表示
5	Excel(5)	論理関数
6	Excel(6)	端数処理
7	Excel(7)	日付処理
8	Excel(8)	データ参照
9	Excel(9)	総合問題
10	Access(1)	テーブル
11	Access(2)	クエリ
12	Access(3)	レポート
13	Access(4)	フォーム
14	Access(5)	総合問題
15	前期試験期間	-

備考	-
----	---

ITエンジニア科	2年
----------	----

【後期】

科目	Office演習応用Ⅱ	分類	専門、必修科目
担当	平山 慶子		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	65%	0%	0%	35%	100%		

<b>1. 授業の概要</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Word: よく使われる機能や体裁よくする機能を学ぶ。</li> <li>・Excel VBA: マクロ機能の基本を学ぶ。</li> </ul>
<b>2. 授業の目標(検定取得など)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Word: 見栄えのいい文書やビジネスで使える文書の作成ができるようになる。</li> <li>・Excel VBA: マクロを利用し、Excelの一歩進んだ使い方を身につける。</li> </ul>
<b>3. 注意点・要望</b>
毎回授業で説明した内容に対する問題を出すので、遅刻をしないように注意
<b>4. 関連科目</b>
-

週	テーマ	内容
1	Word(1)	文字列とオブジェクト
2	Word(2)	ビジネス文書
3	Word(3)	段落書式
4	Word(4)	スクリーンショット
5	Word(5)	総合問題
6	Excel VBA(1)	セルの操作
7	Excel VBA(2)	Withステートメント
8	Excel VBA(3)	Offserプロパティ
9	Excel VBA(4)	罫線の設定、シートの操作
10	Excel VBA(5)	マクロの自動作成
11	Excel VBA(6)	ユーザーフォームの利用
12	Excel VBA(7)	変数、メッセージボックス
13	Excel VBA(8)	Ifステートメント
14	Excel VBA(9)	Select Caseステートメント
15	Excel VBA(10)	For Nextステートメント
16	後期試験期間	-

備考	-
----	---

科目	ソフトウェアテスト基礎	分類	専門、必修科目
担当	株式会社SHIFT 鈴木 佑介、山中 治樹		
テキスト (出版社)	ソフトウェアの品質管理(株式会社SHIFT作成教材)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	30%	0%	20%	100%		

<b>1. 授業の概要</b>
ソフトウェア品質に関する基礎知識、およびソフトウェアテスト設計に関する基本スキルを身に付ける。
<b>2. 授業の目標(検定取得など)</b>
ソフトウェア開発において、品質目標を定め、適切なソフトウェアテストを計画し実施することが出来る。
<b>3. 注意点・要望</b>
講義は会話形式で進めていきます。また、演習も毎回実施しますので、積極的な参加をお願いします。
<b>4. 関連科目</b>
-

週	テーマ	内容
1	IT業界／ソフトウェアテストについて	・世界のIT業界における日本の位置づけ、およびソフトウェア開発におけるQAエンジニアの役割、ソフトウェアテストの重要性を学ぶ。
2	テストの実行体験	・「ソフトウェアの品質管理」を学ぶ前にテスト実行を体験することで、現時点のバグ検出能力を把握し、且つどうすれば多くのバグを発見できたのかを考える。
3	品質とは何か	・良い品質／悪い品質を考える。 ・品質を確認するためのポイントを洗い出し、品質特異別に整理する。
4	品質を検証する工程とテストプロセス	・一連のテスト工程と各テスト工程内で実施するテストプロセスについて考える。 ・テスト設計前に実施すること、テスト実行前に実施することを洗い出す。
5	テスト設計プロセス	・テスト設計のインプットとアウトプットを整理する。 ・テスト設計のプロセス全体を理解する。
6	テスト設計…テスト対象範囲の設定	・テスト対象範囲の設定方法を学ぶ。 ・テスト対象に対して、必要十分なテスト範囲設定を実践してみる。
7	テスト設計…テスト観点の紐づけ	・テスト観点とは何か、どういう利点があるのかを学ぶ。 ・日常生活(ケーキ作り)を題材にテスト観点を作成を体験してみる。
8	テスト設計…確認項目と期待値の設定	・確認項目と期待値の設定方法を学ぶ。 ・テスト観点を紐づけ、確認項目と期待値の設定を実践してみる。
9	テスト設計…パターン表の作成(1)	・因子／水準の洗い出しと漏れのない組み合わせ設定を実践してみる。 ・基本的なテスト技法(同値分割、境界値分析)を学ぶ。
10	テスト設計…パターン表の作成(2)	・テスト技法のエッセンスを復習する。 ・単純な例題に対して、テストケース(パターン表)を作成する。
11	テスト設計…パターン表の作成(3)	・前回のテストケースに実行条件を増やし、テストケースを追加してみる。 ・パターン数の効果的な削減方法について学ぶ。
12	仕様書インスペクション	・各々レビュー技法の概要、およびインスペクションの効果と技法を学ぶ。 ・実際に仕様書のインスペクションを実践してみる。
13	非機能テスト入門	・非機能の概要について学ぶ。 ・システム／ソフトウェアにおける非機能の考え方、テスト手法について学ぶ。
14	理解度確認試験	・本講座全体について復習する。 ・本講座で学んだことの理解度を確認する試験を受ける。
15	実社会におけるエンジニアの今後の展望	・今後の実社会におけるエンジニアとしての仕事の進め方や、エンジニアとしてどのような活躍の道があるのかを、具体例を交えながら考え学ぶ。
16	後期試験期間	学期末確認テスト

備考	各種システムの開発／テストから運用保守に至る幅広い経験を持つ講師が、ソフトウェアの品質について広い視野で且つ実践的な講義を行う。
----	--

科目	やってみなはれ演習応用 I	分類	教養、必修科目
担当	1組:加藤 尚喜、2組:須藤 健一郎		
テキスト (出版社)	プリント教材		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

## 1. 授業の概要

経済産業省が提唱する就職基礎能力を、グループワーク等により向上させる。

## 2. 授業の目標(検定取得など)

リーダー・フォロワー、提案、許容、協調等の資質向上  
就職活動におけるグループワークや面接試験へ活用できる能力を向上させる。

## 3. 注意点・要望

社会人基礎力を常に意識しながら、就職基礎力を訓練し向上させていくこと

## 4. 関連科目

ビジネス関連科目全て

週	テーマ	内容
1	コミュニケーション能力 意思疎通	自己主張と傾聴のバランス
2	コミュニケーション能力 協調性(1)	双方の主張の調整(1)
3	コミュニケーション能力 協調性(2)	双方の主張の調整(2)
4	コミュニケーション能力 自己表現力(1)	訴求力のあるプレゼンテーション(1)
5	コミュニケーション能力 自己表現力(2)	訴求力のあるプレゼンテーション(2)
6	コミュニケーション能力 自己表現力(3)	訴求力のあるプレゼンテーション(3)
7	職業人意識 責任感	社会の一員としての役割の自覚
8	職業人意識 向上心・探求心(1)	働くことへの関心や意欲(1)
9	職業人意識 向上心・探求心(2)	働くことへの関心や意欲(2)
10	職業人意識 職業意識・勤労観(1)	職業・勤労に対する広範な見方・考え方(1)
11	職業人意識 職業意識・勤労観(2)	職業・勤労に対する広範な見方・考え方(2)
12	ビジネスマナー 基本的なマナー(1)	集団社会に必要な気持ちの良い受け答え・マナー(1)
13	ビジネスマナー 基本的なマナー(2)	集団社会に必要な気持ちの良い受け答え・マナー(2)
14	目標設定	1か月後、3か月後、6か月後、1年後、卒業迄、 3年後、5年後、10年後、20年後の目標設定
15	前期試験期間	-

備考

-

科目	やってみなはれ演習応用Ⅱ	分類	教養、必修科目
担当	1組:加藤 尚喜、2組:須藤 健一郎		
テキスト (出版社)	プリント教材		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

## 1. 授業の概要

経済産業省が提唱する就職基礎能力を、グループワーク等により向上させる。

## 2. 授業の目標(検定取得など)

リーダー・フォロワー、提案、許容、協調等の資質向上  
就職活動におけるグループワークや面接試験へ活用できる能力を向上させる。

## 3. 注意点・要望

社会人基礎力を常に意識しながら、就職基礎力を訓練し向上させていくこと

## 4. 関連科目

ビジネス関連科目全て

週	テーマ	内容
1	実践演習(1)	社会人基礎力・就職基礎力を活用したグループワーク実践(1)
2	実践演習(2)	社会人基礎力・就職基礎力を活用したグループワーク実践(2)
3	実践演習(3)	社会人基礎力・就職基礎力を活用したグループワーク実践(3)
4	実践演習(4)	社会人基礎力・就職基礎力を活用したグループワーク実践(4)
5	実践演習(5)	社会人基礎力・就職基礎力を活用したグループワーク実践(5)
6	実践演習(6)	社会人基礎力・就職基礎力を活用したグループワーク実践(6)
7	実践演習(7)	社会人基礎力・就職基礎力を活用したグループワーク実践(7)
8	実践演習(8)	社会人基礎力・就職基礎力を活用したグループワーク実践(8)
9	実践演習(9)	社会人基礎力・就職基礎力を活用したグループワーク実践(9)
10	実践演習(10)	社会人基礎力・就職基礎力を活用したグループワーク実践(10)
11	実践演習(11)	社会人基礎力・就職基礎力を活用したグループワーク実践(11)
12	実践演習(12)	社会人基礎力・就職基礎力を活用したグループワーク実践(12)
13	実践演習(13)	社会人基礎力・就職基礎力を活用したグループワーク実践(13)
14	実践演習(14)	社会人基礎力・就職基礎力を活用したグループワーク実践(14)
15	実践演習(15)	社会人基礎力・就職基礎力を活用したグループワーク実践(15)
16	後期試験期間	-

備考	-
----	---